

ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む 内容構成の工夫

見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容構成

内容のまとまりごとの見通し・振り返りの学習場面をいっそう充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現しやすい構成にしました。一連の学習活動を通じて、より深い理解を促すことができます。



1 章の学習を見通す導入ページ「学習のはじめに」

漫画やイラストを多用した親しみやすい資料の読み解きや活動を通じて、学習への生徒の興味・関心を喚起します。これから学習する章全体の内容や学習のねらい、学習する際の視点を捉えます。

第2章の学習のはじめに 日本国憲法の最も大切な考え方とはなんだろう

第2章の日本国憲法の学習に入る前に、先生と話をしました。

第2章では、日本国憲法について学習します。

「憲法」

日本国憲法は、小学6年生の時にも習ったよね。

世の中にあるルール(法)の中で、最も大切なんだよ。

「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」この3つが、日本国憲法で最も重要な基本原則だと習いました。

「憲法」

確かに、その3つは、日本国憲法の土台に、重要な考え方として示されているよね。

でも、日本国憲法の土台には、その三つの基本原則に、もう一つ大切な考え方があるんだよ。

「個人の尊重」

基本原則に、もう一つ大切な考え方があるんだよ。

憲法は、日本国憲法13条1項に定められている「個人の尊重」という考え方です。

「個人の尊重」

「個人の尊重」は、「個人が尊重されたい社会(一人一人が大切にされる社会、一人一人の権利よりも全体の利益の方が重視される社会)」は、どのような社会か、それはなぜか、具体的にあげながら考えよう。

「個人の尊重」

日本国憲法第13条 1項 すべて国民は、個人として尊重される。

左のページの漫画を読んで、以下の問いについて考えよう。

- 先生が持っている「個人が尊重されない社会(一人一人が大切にされない社会、一人一人の権利よりも全体の利益の方が重視される社会)」は、どのような社会か、それはなぜか、具体的にあげながら考えよう。
- おぼたが内容について、グループで意見を交換し、グループの代表意見(気になると思われる問題、その理由)を決めよう。
- おぼたの内容をクラスで発表し、各グループの代表意見の中でもっともピンと来た意見について、その意見について感想を語り、また、その問題を解決するために、どのようなルールや考え方が必要か、考えてみよう。

左のページの漫画を読んで、以下の問いについて考えよう。

「個人の尊重」の大切さを、身近な生活の中で、どのように実践できるか、考えてみよう。

「個人の尊重」の大切さを、身近な生活の中で、どのように実践できるか、考えてみよう。

「個人の尊重」の大切さを、身近な生活の中で、どのように実践できるか、考えてみよう。

4 章・節の学習を振り返る「学習のまとめと表現ページ」

各章の終わりに設けた、章全体の学習を振り返って整理するコーナーです。基礎・基本の定着を図る「STEP 1」、思考ツールなど資料を活用して課題に取り組む「STEP 2」、章全体の「問い」に対して自分なりに答える「STEP 3」の3段階でのまとめと、次章への準備が確実に図れます。

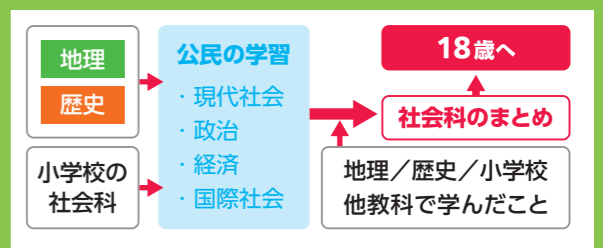
4 章の学習を見通し 「第2章 個人を尊重する日本国憲法」

第2章は三つの節から構成されています。「1 節：日本国憲法の成り立ちと国民主権」では、「日本国憲法はどのようにして生まれたのか、私たちの生活にどのような役割を果たしているのか」という問いをテーマに学習を進めます。「2 節：憲法が保障する基本的人権」では、「私たちは、どのようにして基本的人権を生きているのか、また、それは、憲法の学習の始まりです。」

以上三つの節の学習を通して、第2章全体では、「なぜ「個人を尊重する」ことが大切になるのか、また、それは、憲法の学習の始まりです。」という問いに対して、自分なりに答えることができるようになります。

公民学習の見通し

『私たちは、どのようにして持続可能な未来の社会を築くことができるのだろうか。』を全体のテーマにしています。小学社会や地理・歴史とのつながりとともに、「18歳選挙」を見据えた卒業後も続く学びを意識しながら学ぶことができます。



5 変わる産業と貿易
学習課題 東南アジア各国の人々の暮らし

見通しを示す「学習課題」
これから1時間の学習で何について追究していくのかを明確にします。

p.48-49

確認 東南アジア諸国連合が、表にまとめよう。

表現 資料4を参考に、輸出からどのように人々の暮らしが変化したか、まとめよう。

「確認」：本時で学習したことを確認し、整理します。
「表現」：学習したことを活用し、自分の言葉で表現することから、深い学びを導きます。

2 本時ページ
見開き2ページ=1時間の構成で、見開きごとに「学習課題」(学習の見通し)と、「確認/表現」(振り返り)を設け、生徒の主体的な学習を促します。

2 差別をしない、させない
学習課題 差別のない社会をつくるために、どうしたらよいでしょうか。

2 外国人に対する差別
我が国には、かつて日本政府が朝鮮を支配していた際、朝鮮半島から日本に移住した人、連れて来られたりした人々や、その子孫から日本国籍を継承した人々や、1980年代以降、主にアジアや南米から、来られています。また、1980年代以降、主にアジアや南米から、来られています。

2 外国人に対する差別
我が国には、かつて日本政府が朝鮮を支配していた際、朝鮮半島から日本に移住した人、連れて来られたりした人々や、その子孫から日本国籍を継承した人々や、1980年代以降、主にアジアや南米から、来られています。また、1980年代以降、主にアジアや南米から、来られています。

3 特設ページ
視点を変えて学習内容を捉えなおす「特設ページ」

本時の学習内容と関連を図りながら、さらに一歩進める今日的な課題をテーマにした特設ページを、多数設定しました。

ともに生きる社会を目指す人々

文字を知る喜び

身近にある人権問題に、学校で取り組む

3 特設ページ
視点を変えて学習内容を捉えなおす「特設ページ」

本時の学習内容と関連を図りながら、さらに一歩進める今日的な課題をテーマにした特設ページを、多数設定しました。

「新しい人権」を考える
私たちは、歴史や文化の異なる国々で暮らす人々とともに生きています。互いに認め合い、協力し合いながら、ともに生きていくために、私たちは何を考えるべきでしょうか。

2 思考・判断・表現する場面を位置づけた、学習の流れがわかりやすいページ構成

見開き2ページ=1時間の授業展開で学習の見通しを立てやすく、本文と資料のバランスを考えた紙面です。生徒が自ら学べるよう、資料を読み解く手がかりも示しています。

1 1時間の学習を見通す「導入」

生徒の興味・関心を高め、学習のきっかけとなる写真・地図などを導入に位置づけました。**キャラクターの言葉**や「LOOK!」は、導入資料をサポートします。

LOOK!
導入資料を解説することで、先生の授業を助け、生徒の自学自習にも役立ちます。

キャラクターの言葉
導入資料の見方のヒントになります。



3 18歳選挙権と私たち

学習課題 選挙にはどのような課題があり、どのように解決が目ざされているのでしょうか。

2018年6月21日より、20歳以上から18歳以上に引き下げられました。

国名	選挙権*	被選挙権*	成人年齢
アメリカ	18歳	25歳	18~21歳
イギリス	18	18	18
フランス	18	18	18
韓国	19	25	19
日本	18	25	20 (2022年4月より18)
ブラジル	16	21	18

*下院(韓国は一院制)の年齢。日本は衆議院。(2019年1月現在)

3 各国の選挙権年齢、被選挙権年齢、成人年齢

	これまで	解禁後
選挙期間中の街頭演説会告知	選挙カーによる音声、電話など	SNS、ホームページなどで告知可能
動画配信	禁止	演説会の様子を配信できる
メールによる投票呼びかけ	禁止	候補者と政党に限り認められる

4 インターネット選挙の解禁で可能となった選挙運動

選挙権の拡大 公職選挙法が改正され、2016年から「18歳選挙権」が実現しました。選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げることは、日本では1945年以降の選挙制度の大きな改正となります。アメリカ、イギリス、フランスをはじめ、世界のほとんどの国では、すでに選挙権が18歳以上に引き下げられていますが、今回の改正はその流れに沿うものです。憲法改正のための国民投票の投票権年齢が18歳以上になったことと合わせ、若い世代の政治参加への道が広がることになりました。

若くして政治参加への道が広がることになりました。若くして政治参加への道が広がることになりました。若くして政治参加への道が広がることになりました。

選挙の課題 しかし、18歳選挙権が実現したにもかかわらず、若い世代の投票率は決して高くありません。10代が初めて参加した2016年の参議院議員選挙では、20代の投票率に比べれば高いものの、全体の投票率の54.7%には及びませんでした。また、全体的に見ても、投票率は長期的に低下しています。

2 学習課題? 学習内容を自分事としてとらえる「学習課題」

タイトルには、学習内容についてイメージを膨らませる**主題**、学習事項を端的に示した**副題**を明示しました。**学習課題**では、この1時間の授業の見通しをわかりやすく示し、学習意欲を高めます。

資料番号 1, 2, 3...
本文と資料の関連を番号で示しています。本文を読みながら資料を結びつけることができ、学習が深まります。

3 読んでわかる、授業しやすい「本文」

読みやすく、わかりやすい文章で、生徒の社会的現象への理解を深めます。生徒が「わかる」記述は、授業中はもちろん、自ら学ぼうとする場面でも、基礎・基本の定着にも役立ちます。

4 読み解こう 思考・判断・表現する力を育む「読み解こう」

本文の流れに即し、資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組むことができ、**資料を活用する力**が身につきます。

読み解こう

- 一票の格差は、最大で何倍の差があるだろうか。
- 一票の格差があることは、どうして問題なのだろうか。
- このような格差を解消していくためには、どうしたら良いだろうか。【見×考】

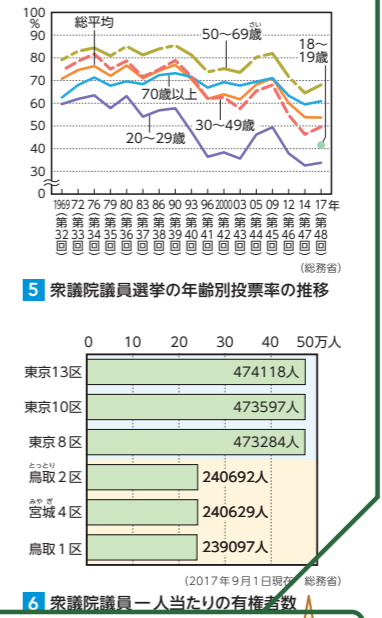
*ここでは、3章の「見方・考え方」を活用して考える力の養成にも、役立つ内容になっています。

公民の窓 広がる期日前投票制度

近年、選挙での投票率を上げようと、各地でさまざまな試みが広がっています。その一つが、期日前投票制度の運用です。仕事や冠婚葬祭など、一定の理由で投票日に投票することができない場合、投票日の前日までの間に投票ができるという制度です。大型のショッピングモールや鉄道の駅など、人が多く集まる場所に投票所が置かれることが多いですが、有権者となった学生が授業や講義の合間にも投票できるよう、高校や大学の構内に投票所を設けるケースも増えています。また、高齢化や過疎化が進む地域では、投票所まで行くことが難しい有権者のために、ワゴン車による「移動期日前投票所」を導入する試みも始まっています。

大学のキャンパス内の投票所 (2017年 佐賀県佐賀市)

ワゴン車での移動式の投票所 (2016年 徳島県須賀市)



衆議院議員選挙の投票率でも、同じような結果が示されています。投票率が低下するのは、政治への関心がもてないことや、関心があっても投票したいと思う候補者や政党が見つからないことなど、さまざまな理由があります。しかし、投票を棄権することは、自らの大切な権利を放棄するばかりでなく、選挙や議会の決定への信頼性を低下させることにもつながる危険性があります。

一票の格差の問題 また、選挙区によって一票の価値が異なることも、選挙制度の問題点として指摘されています。選挙が国民の意見を正しく反映するためには、一票の価値が平等であることが大切です。ところが現在の日本では、議員一人当たりの有権者数に、およそ2倍の差がある選挙区が存在します。このような「一票の格差」は、解消していく必要があります。一方で、人口が減少する地域の声をどのように国政に反映させるかといった課題も残っています。一人でも多くの国民の声を政治に反映させるために、より良いしくみづくりの模索が続いています。

読み解こう

- 一票の格差は、最大で何倍の差があるだろうか。
- 一票の格差があることは、どうして問題なのだろうか。
- このような格差を解消していくためには、どうしたら良いだろうか。【見×考】

2 世界には、国民に対して投票を法律で義務づけている国もあります。例えば、オーストラリアでは、正当な理由もなく投票を棄権すると、罰金として約2000円を支払わなくてはなりません。

確認! 投票年齢が20歳から18歳に引き下げられたことには、どのような意味があるか考えよう。

表現! 投票率を上げるにはどうしたらよいか、他の国の例を参考に考え、意見を交換しよう。【見×考】

6 学習内容と関連する「SDGsの表示」

SDGs 11 持続可能な都市 / 16 平和

7 ページ番号の横に示した「章・学習パート(節)の表示」

いま、どの章の中のどの節の学習をしているのか、**学習の現在地**を示します。

5 本時の振り返りとして、②の学習課題と対応させた「確認」と「表現」

この時間で学習したことを基に、「確認」では基礎的な事項の確認と整理、「表現」では社会的現象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に振り返りながらまとめることができ、学習が深まります。

確認! 本時の学習の中で、重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄をしっかりとおさえます。

表現! 本時の学習を振り返り、言葉で表現したり、対話したりすることで深い学びにつなげます。

3 「見方・考え方」を働かせた 学びや資料の活用を支援する学習コーナー

公民学習における現代社会の「見方・考え方」を働かせた学びが、各章の学習内容と連動しながら養えます。また、本時の学習を出発点とし、生徒の興味・関心が広がり、学習意欲が高まる各種のコラムを設けました。

公民の学習で働かせる「見方・考え方」

各章で意識させたい大事な視点となる「見方・考え方」を、それぞれの導入ページで紹介しています。本時のなかでは、その「見方・考え方」を活用して考えさせたい問いかけに、「見×考マーク見×考」をつけています。さらに、各章のまとめと表現のページでは、章全体の学習を振り返ってまとめ、章全体の問いについて考える際の視点に用います。繰り返し活用することで、深い思考力を養えます。

good

学習の見通し 「第1章 私たちの暮らしと現代社会」

第1章は三つの節で構成されています。「1節：私たちが生きる現代社会」では、「私たちは、どのような時代や社会に生きているのだろうか」をテーマに学習を進めます。「2節：現代につながる伝統と文化」では、「私たちの暮らしのなかで、伝統や文化はどのように受け継がれているのだろうか」をテーマに学習を進めます。「3節：私たちがつくるこれからの社会」では、「ともによりよい社会をつくるために、私たちはどのように社会のルールを考えればよいのだろうか」をテーマに学習を進めます。



第1章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正

▲ p.18下

第2章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正
▶ 個人の尊重 ▶ 法の支配 ▶ 民主主義

▲ p.39

第3章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正
▶ 個人の尊重と法の支配 ▶ 民主主義

▲ p.83

第4章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正
▶ 分業と交換 ▶ 希少性

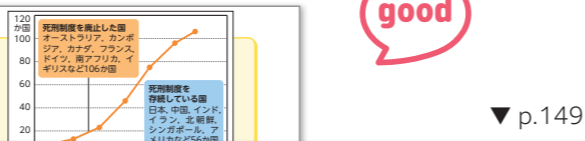
▲ p.129

第5章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正
▶ 分業と交換 ▶ 希少性

▲ p.169

第6章の学習の「見方・考え方」見×考
▶ 対立と合意 ▶ 効率と公正
▶ 協調 ▶ 持続可能性

▲ p.193



▼ p.149

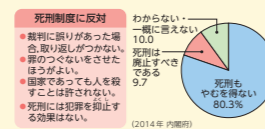
公民の技 「公民の技」

個人やグループでの活動を通じて、公民の学習で身につけさせたい技能や表現力など、まさに“技”を磨くコーナーです。身につけたことが、社会のなかで活用できるようになります。必要な場面で無理なく全10編を設けています。

公民の技

死刑制度について考えよう

他人の生命(生きる権利)を奪った罪などに対する最も重い刑罰として、日本では「死刑」の制度があります。一方で、憲法第36条で禁止された残虐な刑罰に当たらないかという議論や、国際社会では死刑を廃止する国が増えていることもあり、死刑制度を廃止すべきかという意見があります。

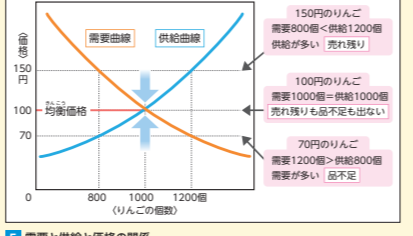


▲ p.57

公民の技

需要と供給曲線について考えよう

右のグラフでは、りんご1個の価格、横軸が取り引きされるりんごの個数を示しています。グラフを見ながら、以下の問いに答えてみましょう。
①りんごが1個70円だったら、消費者はいくつほしいと考えるだろうか。
②そのとき八百屋さんは、価格が高い・安いので、たくさん(売りたい・売らたくない)と思う。(※どちらか一方に○印をつけよう。)
③その後、価格と売れる量はどのように動いていくだろうか。図から読み取ってみよう。



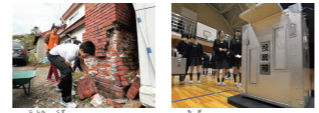
good

表現！ 子どもたちが安心して育ち、高齢者が幸せに暮らしていける社会を築くためにはどのようなことが必要か、意見を交換し合ってみよう。見×考
▲ p.19
▼ p.36上

第1章全体のテーマについて、次の問いに答えよう。見×考

第1章「私たちの暮らしと現代社会」全体のテーマ
「私たちが生きている現代社会とは、どのような社会なのだろうか。」

- ①現代社会の特徴について、グローバル化・情報化・少子高齢化の三つのキーワードから、それぞれ説明しよう。
- ②「第1章の学習のはじめに」で行った課題「修学旅行のクラス別行動のコース決め」(p.13)について、改めて第1章で学んだ学習をふまえて、吹き出しに言葉を入れてみよう。その際、「効率と公正」の観点をふまえて考えよう。
- ③私たちが生きている現代社会の「これから」を考えたとき、どのようなことが重要になってくると考えられるか、右の写真を参考にしながら、自分の意見をまとめよう。



▼ p.93

公民の窓 インターネットの発達と民主政治

これまで私たちは、マスメディアによって選択され、一方的に発信される情報を受け取ることがほとんどでした。しかし現在はインターネットの発達により、より多くの情報を自ら検索して収集できるとともに、自分の意見や情報を広く発信することも可能になりました。ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などを通じて人々が意見を交わし合うことで、より積極的に人々が政治に参加する可能性が開かれています。

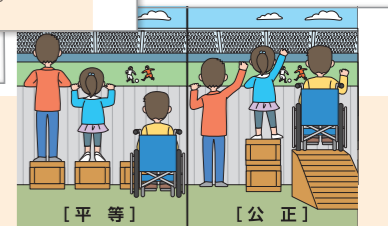


トランプ大統領とSNS

2017年に就任したアメリカのトランプ大統領は、大統領選挙の際に就任後も、自らSNSを使った情報発信を積極的に行い、人々にさまざまな影響を与えました。

公民の窓 平等であること、公正であること

右のイラストを見てみましょう。誰もが等しく扱われることの大切さから、同じように台が用意されましたが、この場合の問題は解決しません。まず公正さの観点から、それぞれの人の違いに応じた配慮が行き届いて、初めて平等に観戦を楽しむ機会が得られたのです。



台が平等に用意された場合(左)と、実態に応じて用意された場合(右)

公民の窓 「公民の窓」

生徒の興味・関心を喚起する、特色あるコラムです。本文内容からさらに一歩進んで学びを掘り下げ、視点を変えたり視野を広げたりできる内容で、多面的・多角的な見方が身につきます。全38編で、本編を支えます。

〈公民の窓・ラインナップ〉

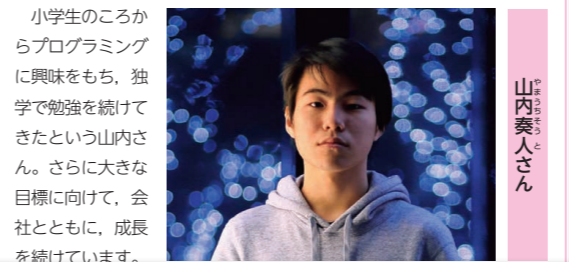
受け継がれる京都の景観	27	各国の二院制	97	ゆりかごから墓場まで	173
じゃんけんは公平か	29	小さな政府と大きな政府	103	平等であること、公正であること	177
外国人と参政権、公務員への採用	47	中学生の人権と裁判	105	ダムの撤去でよみがえった	
ヘイトスピーチ	55	冤罪と再審	107	河川環境	181
捜査技術の進歩と人権	57	公判前整理手続の役割	109	放置された人工林	183
広がる「子ども食堂」	59	もう一つの権力分立	115	森・海・川の再生へ	185
B型肝炎訴訟	63	地域おこしと地方財政	119	国旗と国歌の歴史	195
コスタリカの憲法にみる平和条項	75	貨幣・お金のたはらき	131	「RCEP」の描く未来	203
ヒトラーの独裁政権	85	PL法をめぐる	133	核兵器禁止条約と日本	207
過半数を尊重すること	87	1円でできる株式会社	141	難民を祖国に	209
広がる期日前投票制度	89	水道事業の民営化	151	エルサレムの共存と対立	211
利益団体の役割	91	財政投融资	161	「児童労働」とはなんだろう	217
インターネットの発達と民主政治	93	豊かさやGDP	163	核のゴミはどこへ	219

▲ p.5

▼ p.51

高校生のCEO

山内奏人さんは、中学生のころにいくつかのベンチャー企業に携った経験を生かし、高校生になった2016年に、友人と自分の会社を立ち上げてそのCEO(最高経営責任者)に就任しました。そして、消費者と企業を結びつけるアプリの開発に成功しました。このアプリのしくみは、買い物の際にもらうレシートの購入記録を買い取り、それを必要とする企業に販売することで利益を得るといふものです。



山内奏人さん

「クリップ」
学習内容と関連する人々の姿や営みにスポットを当てた、コラム全9編です。学んだことをよりいっそう身近に感じ、具体的にとらえることができます。

▲ p.139



6 視覚障がい者誘導用ブロック(点字ブロック)

写真を見て、気づいたことをあげてみよう。

「Q」
資料への問いかけや活動を促す「Q」も随所に設け、読み取りの視点が養えます。